



アッセブリッジ・ナゴヤ 2019 メインビジュアル

# アッセブリッジ・ナゴヤ 2019

Assebridge NAGOYA 2019

## 開催概要決定

**開催期間** 2019年9月7日(土)～11月10日(日)

会期中の木曜、金曜、土曜、日曜、祝日開催

**会場** 名古屋港～築地口エリア一帯

**主催** | アッセブリッジ・ナゴヤ実行委員会

構成団体：名古屋市、港まちづくり協議会、名古屋港管理組合、  
公益財団法人名古屋フィルハーモニー交響楽団、  
公益財団法人名古屋市文化振興事業団

**助成** | 令和元年度 文化芸術創造拠点形成事業



## 目次

メインビジュアル コンセプト .....	P2
開催趣旨、開催概要、アッセンブリッジ・ナゴヤについて .....	P3
見どころ .....	P4
ディレクター挨拶/企画概要	
音楽プログラム .....	P5
アートプログラム .....	P6
サウンドブリッジ .....	P7
企画体制 .....	P8
参加アーティスト紹介 .....	P9

## メインビジュアル コンセプト

港まちの様々な場所でプログラムが開催される本フェスティバルのコンセプトから、音楽とアートがまちに散らばり、広がり、人と人、人とまちがつながることをイメージしたメインビジュアル。ドットで作った文字や、拡散し重なるドットは、散らばりながらも見えない線がそこにあり、フェスティバルを通して生まれるつながりをデザインの中で表現しています。



### アッセンブリッジ・ナゴヤ 2019 デザインディレクション、デザイン

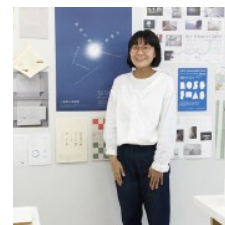
中西要介 Yosuke Nakanishi

1981 年生まれ、神奈川県在住。株式会社 STUDIO PT.。フリーランスを経て、2018 年中澤耕平と株式会社 STUDIO PT. 設立。エディトリアルデザインを軸に、いろいろな媒体のデザインを手がける。  
HP | [studio-pt.co/](http://studio-pt.co/)



溝田尚子 Naoko Mizota

1978 年生まれ、愛知県在住。フリーランス。千種区今池にある共同オフィス Sandwich に在籍。最近、リングラフィスタジオ whenpress を仲間とオープン。愛知県を中心に、美術系のアートワークを手掛ける。  
HP | [www.mizotanaoko.com](http://www.mizotanaoko.com)



### デザイン

中澤耕平 (STUDIO PT.)、根津小春 (STUDIO PT.)



## 開催趣旨

アッセンブリッジ・ナゴヤは、今年で4回目を迎えます。会場となる名古屋の港まちは、産業都市としての名古屋の発展を支えてきた歴史あるまちです。2016年より港まちエリアを中心に開催している本フェスティバルは、いつもの生活空間の中で、文化に触れることのできる、日常と地続きの芸術体験を展開するべく、音楽とアートという2つのジャンルから国内外で活躍するアーティストを紹介してきました。

今年度は、公演や展示に加え、公募によるレジデンスプログラムや、アーティストそれぞれの創作背景を参加者と共有するワークショップなど、鑑賞にとどまらないプログラムを企画・開催します。本フェスティバルでの体験を通し、多くの人々にとって文化がより身近なものとなり、そしてフェスティバルが新たな出会いや繋がりを生み出す場となることを目指します。アッセンブリッジ・ナゴヤの試みに、どうぞご期待ください。

## 開催概要

**名称** アッセンブリッジ・ナゴヤ 2019 Assembridge NAGOYA 2019

**開催期間** 2019年9月7日(土)~11月10日(日)  
会期中の木曜、金曜、土曜、日曜、祝日開催

**会場** 名古屋港～築地口エリア一帯

**主催** アッセンブリッジ・ナゴヤ実行委員会  
構成団体：名古屋市、港まちづくり協議会、名古屋港管理組合、  
公益財団法人名古屋フィルハーモニー交響楽団、公益財団法人名古屋市文化振興事業団

**助成** 令和元年度 文化芸術創造拠点形成事業



## アッセンブリッジ・ナゴヤについて

アッセンブリッジ・ナゴヤは、2016年よりスタートし、名古屋の港まちは舞台にした音楽と現代美術のフェスティバルです。音楽やアートが架け橋となり、まちと人が出会い、つながりが生まれ、新たな文化が育まれていくことを目指しています。コンサートホールや美術館ではなく、いつものまちが会場となり、名古屋の港まちな日常に音楽やアートが溶け込み、創造性溢れる場所から風景が動き出していきます。

※[アッセンブリッジ assembridge]とは、「集める」「組み立てる」などの意味をもつ[アッセンブル assemble]と、[ブリッジ bridge]を組み合わせた造語です。



## 見どころ

### 1. ジャンルを超えた多彩なプログラム

アッセンブリッジ・ナゴヤの特徴は、音楽と現代アートという 2 つの異なるジャンルを掲げていることにあります。音楽やアートといっても、その表現は多岐にわたり、ひとつにくるこつのできるものではありません。アッセンブリッジ・ナゴヤでは、それらの異なるジャンルを横断するフェスティバルを目指し、音楽、アート、パフォーマンスなどのクロスオーバー型プログラム〈サウンドブリッジ〉や、みなとまちの人々やアーティストが 1 つの同じ舞台上立つクロージングイベント〈港まちブロックパーティー〉を開催します。ジャンルや、見る／作るといった立場、既存のスタイルや思考などの垣根を超えて人々や出来事が集まり、共に創造性あふれるフェスティバルをかたちづくるプログラムを展開します。



### 2. 鑑賞から体験へ

アッセンブリッジ・ナゴヤでは、展覧会や公演を鑑賞するだけでなく、音楽やアートの多様な楽しみ方を提案するプログラムを行います。音楽プログラムでは、コミュニケーションツールとしての音楽のあり方を考えることをテーマに、港まちで活動を行うレジデンスアンサンブルや、未経験者を対象とした演奏者の公募を行い、音楽を通じた新たな出会いと体験の場を創出します。アートプログラム、そして、サウンドブリッジでは、今年度のフェスティバルでの新作発表に向けて、2018 年よりリサーチを開始し、一般参加者を交えたオープンなクリエイションの機会を設けてきました。今年度の開催期間中においても、参加型のリサーチワークショップなど同様のプログラムを実施し、アーティストの視点や考えをより身近に感じてもらい、アートへの広い視点を育む活動を展開します。



## 企画概要

### 音楽プログラム | MUSIC

#### ディレクター挨拶

名古屋は都市であり、自分で芸術にアクセスしようと思えば可能な環境であると言えます。そんな中、文化芸術は縁遠い、自分には関係ないと思っている人へ、どのように届けるか。自分たちの生活エリアで始まった本フェスティバルは、いわば祝祭的な幕開けから、徐々により身近に、より、生活に寄り添った形を模索してきました。音楽プログラムでは、今年度はさらに、鑑賞という受容するものから、体験する音楽へ。コミュニケーションツールとしての「音楽」のあり方を考えていきます。音楽を聴くだけでなく、実際に楽器を演奏することによって音楽との新たな出会いを創出し、プログラムを通し、文化芸術の価値について考えます。

— 音楽プログラムディレクター | 岩田彩子

#### 企画概要

音楽プログラムでは、初級者から未来の、そして世界的な音楽家までが一同にアッセンブリッジ・ナゴヤのステージに集います。世界的なヴァイオリニストであるインゴルフ・トゥルバンなど国内外で活躍する奏者たちの演奏を、港まちエリアの特徴である港の風景を感じられるポートハウスなどでお楽しみいただけるプログラムのほか、昨年より好評を得ているレジデンスプログラムを実施します。公募により集まったレジデンスアーティストらは、月に2回程度の指導と、教育者でもある、ミュンヘン音楽大学のトゥルバン教授による公開レッスンを受け、演奏者としての多くをプログラムの中で学び、10月にポートビルで成果発表を行います。

#### レジデンスプログラム

演奏家がコミュニケーションツールとしての「音楽の在り方」を考えることを目的とし、港まちの幼稚園や福祉施設などを訪れ、児童や利用者の方とともに音楽を楽しむ公演を行うアーティストを公募するレジデンスプログラムを実施します。演奏家たちは、様々な場所、様々な鑑賞者と対峙することによって、演奏家としての更なる経験を積み、演奏家としてどのように音楽を伝えられるのかをプログラムを通して学びます。また、招聘アーティストである、トゥルバン氏によるアドバイスレッスンを受け、会期中に成果公演を行います。

#### アッセンブリッジ・ストリングス

音楽の楽しみ方や魅力は、観る・聴くだけではなく演奏する事によって、音楽の持つ魅力を深く体験することができます。アッセンブリッジ・ストリングスでは、楽器演奏を通して、音楽の魅力に触れる機会をつくることを目的とし、経験を問わず弦楽演奏に興味のある方を公募する参加型プログラムを実施します。公募により選ばれた参加者は、プロの演奏家らによるレッスンを経て、楽器演奏を学び、会期中に実際にステージに立ち、演奏を行います。

#### 参加アーティスト

インゴルフ・トゥルバン（ミュンヘン音楽大学ヴァイオリン科教授）、安田祥子（ヴァイオリン）、春日井久美子（ヴァイオリン）、景山 奏（ヴィオラ）、荒井 結（チェロ）、岡林和歌（クラリネット）ほか



## 企画概要

### アートプログラム | ART

#### ディレクター挨拶

2016年より続くタイトル「パノラマ庭園」のもと、会場となる港まちエリアをひとつの「庭」に見立て、作庭するようにまちにアーティストが入り込んでいきます。2018-19年では「地図」や「風景」をキーワードに、港まちのこれまで、そしてこれからと移り行く様相そのものについて探求しています。「地図」は現在地を示す記号的側面とともに、土地の移り変わりを記録（アーカイブ）する機能を持ち合わせます。アッセンブリッジ・ナゴヤがスタートして4年目を迎えますが、その間も港まちの風景は動き続けています。

アーティストユニット・LPACK.を中心にさまざまな人びととともに「まちの社交場」として開いてきた「UCO」や、手芸店を改修したウィンドーギャラリー「BotãoGallery」をはじめ数多くの商店が閉店し、家屋が取り壊されると同時に、新たな建物がつくられながらもなお、空き地や空き家は増え続け、まちの風景は刻々と変化しています。そのようなまちの変化を受け止めながらも小さなアクションを起こし続け、その変化を記録し思考する媒体・プラットフォームとして、アートを軸に据えたプロジェクトを時間をかけて紡いでいきます。

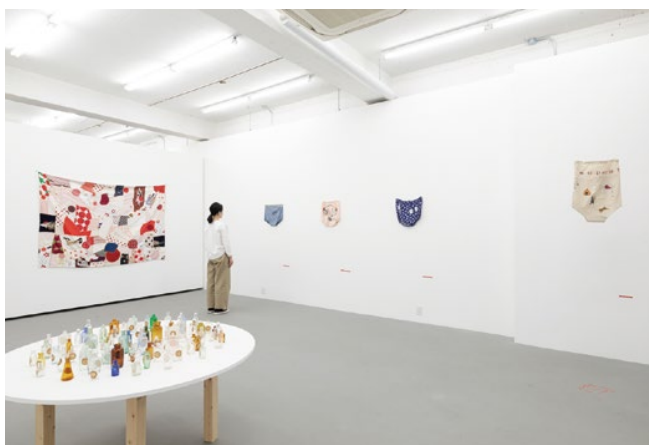
— アートプログラムディレクター | 服部浩之、青田真也、吉田有里

#### 企画概要

アートプログラムでは、2018年度より、碓井ゆい、L PACK.、山本高之3名のアーティストを選出し、2019年の本フェスティバルに向けてリサーチやワークショップを重ねてきました。今年度は、上記3名による新作を発表するほか、加えて、千葉正也を招聘し、港まちの店舗や施設を会場に展覧会を開催します。会期中には、アーティストトークやワークショップなどを実施し、アーティストの声や思考に触れることで展覧会をより深く楽しむことのできる、参加型プログラムを行います。

#### 参加アーティスト

碓井ゆい、L PACK.、千葉正也、山本高之 ほか



アッセンブリッジ・ナゴヤ 2018 展示風景  
撮影 | 富田了平



《UCO》2016-

## 企画概要

### サウンドブリッジ | SOUND BRIDGE

#### 企画概要

2017年より新たに加わったサウンドブリッジでは、音楽やアート、パフォーマンス、カルチャーなど、分野を横断する新たな部門として、港まちを会場にサイトスペシフィックなプログラムを展開します。今年度は、1990年代より振付家・演出家として実験的で野心的な舞台作品の発表を続ける山下残の参加を発表し、本フェスティバル初公開となる新作公演を行います。演者と観客、音楽とアート、劇場と都市空間を横断するプログラムを複合的に展開します。また昨年度実施した「港まちブロックパーティー」を、今年もフェスティバルのクロージングイベントとして行います。ブロックパーティーは「地域の祭り」を意味し、幅広い年代、ジャンルの人々が地域の内外から集い出来事を共有する、アッセンブリッジ・ナゴヤを象徴するようなプログラムとして開催します。

#### 参加アーティスト

#### 山下 残 ほか



右上より反時計回り

港まちブロックパーティーでの練り歩きの様子  
アッセンブリッジ・ナゴヤ 2018  
撮影 | 三浦知也

Aokid 《OVERTHERAINboy》  
アッセンブリッジ・ナゴヤ 2018  
撮影 | 今井正由己

港まちブロックパーティーでの盆踊りの様子  
アッセンブリッジ・ナゴヤ 2018  
撮影 | 三浦知也

## 企画体制／プロフィール

### アートプログラムディレクター

服部 浩之 Hiroyuki Hattori

インディペンデントキュレーター／秋田公立美術大学 准教授

1978年愛知県生まれ。2009-16年青森公立大学国際芸術センター青森 [ACAC] 学芸員。近年の主な企画に、「あいちトリエンナーレ2016」、「近くへの遠まわり」(ウィフレド・ラム現代美術センター、キューバ・ハバナ、2018年)など。また第58回ヴェネチア・ビエンナーレ国際美術展 日本館キュレーターを務める。

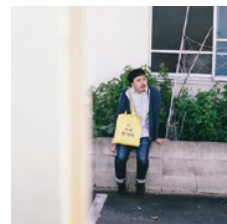


青田 真也 Shinya Aota

アーティスト

1982年大阪府生まれ。主な展覧会に「あいちトリエンナーレ2010」、「日常／オフレコ」(神奈川芸術劇場、2014年)、「MOT アニュアル2014」(東京都現代美術館)、「Shinya Aota 2014」(青山 | 目黒、東京)、「青田真也 | よりそうかたち」(Breaker Project、大阪、2018年)など。また2015年より名古屋港エリアのアートプログラムの共同ディレクターを務める。

撮影 | 三浦知也



吉田 有里 Yuri Yoshida

アートコーディネーター

1982年東京都生まれ。BankART1929のスタッフを経て、あいちトリエンナーレ2010・2013のアシスタントキュレーターとしてまちなか展示の会場である長者町エリアを担当。2014年より名古屋港エリアのアートプログラムの共同ディレクターを務める。



### 音楽プログラムディレクター

岩田 彩子 Ayako Iwata

チェリスト

1978年愛知県生まれ。大学在学中から、チェリストとして、オーケストラでの客演や、室内楽、ソロ、レコーディング等ジャンルを隔てた演奏を続けるとともに、演奏会の企画、合唱団の立上げなど企画運営も行う。音楽大学での講師、豊田市ジュニアオーケストラの指導者等、教育活動にも力を入れている。

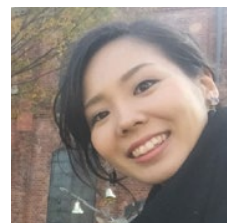


### コーディネーター

谷口 裕子 Yuko Taniguchi

舞台制作者

1986年愛知県生まれ。2011-15年 SPAC- 静岡県舞台芸術センター制作部所属。あいちトリエンナーレ2016「パブロープ」(西尾美也+403architecture[dajiba])にてプロジェクトコーディネーターを務める。2017年アッセンブリッジ・ナゴヤ音楽部門アシスタント、2018年よりコーディネーター。

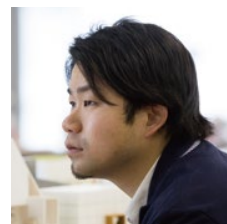


### アーキテクト

米澤 隆 Takashi Yonezawa

建築家／米澤隆建築設計事務所主宰／大同大学専任講師

1982年京都府生まれ、愛知県在住。主な作品に『公文式という建築』2011、『福田邸』2013などがある。主な受賞に、『THE INTERNATIONAL ARCHITECTURE AWARD 2013』『日本建築学会作品選集 新人賞 2015』などがある。





## 参加アーティスト紹介

### 音楽プログラム

#### インゴルフ・トゥルバン Ingolf Turban

ヴァイオリニスト/ミュンヘン音楽大学教授

ニューヨーク、ウィーン楽友協会ホール、ミラノ・スカラ座等、世界の主要ホールでの公演にソリストとして出演し、セルジュ・チェリビダッケ、シャルル・デュトワ、ロリン・マゼール、ズービン・メータ、ユンディ・メヌーインらと共演。現在もソロ、室内楽を含め、年間 50 回以上の演奏会に出演している。レパートリーは「バッハからベルク」まで、多岐にわたる。特筆すべきニコロ・パガニーニの作品の取り組みでは、2006 年にニューヨークフィルとヴァイオリン協奏曲全 6 曲の録音（テロスコールド）を行なった。またドキュメンタリー番組「パガニーニの謎」（メルクア TV2006）へも出演している。

2006 年までの 11 年間、シュトゥットガルト音楽演劇大学に教授として招かれ後進の指導に専心したのち、現在はミュンヘン音楽演劇大学にて教鞭を執っている。門下生には、ベルリン・ドイツ交響楽団、ミュンヘン交響楽団、シュトゥットガルト州立歌劇場のコンサートマスターの他、セバステアーン・ポーレン、鈴木舞などがある。ソロ、室内楽共に優れた教育者として定評があり、ヨーロッパでのマスタークラスは常にキャンセル待ちである。ヘンレ社の楽譜の監修にも携わっており、2019 年にクロイツェル全練習曲が新たに出版される。

その他の楽譜の監修（ヘンレ社）

サラサーテ：ツイゴイネルワイゼン 作品 20、サン＝サーンス：ハバネラ ホ長調 作品 83、ドビュッシー：前奏曲集第 1 巻より「ミンストレル」、チャイコフスキー：憂鬱なセレナード

- 1964 年 ミュンヘンに生まれる。12 歳よりゲルハルト・ヘッツェルのクラスに入門する。  
イエッツ・エラーマン、ドロシー・ディレイの講習会に参加する。
- 1985 年 21 歳の時にミュンヘンフィルの第一コンサートマスターとなる。
- 1986 年 チェリビダッケの指揮のもとシベリウスのヴァイオリン協奏曲を演奏しソロデビュー。
- 1988 年 ミュンヘンフィルを退団し、ソロの活動に専念する。
- 1991 年 ミラノ・スカラ座デビュー及びワシントンでアメリカデビュー。
- 1995 年 シュトゥットガルト音楽演劇大学の教授に就任。
- 2006 年 ミュンヘン音楽大学の教授に就任。

#### 安田祥子 Shoko Yasuda

ヴァイオリニスト

名古屋市立菊里高等学校音楽科及び、愛知県立芸術大学音楽学部器楽科卒業。同大学大学院音楽研究科博士前期課程修了。第 21 回日本クラシック音楽コンクール第 5 位（最高位）。第 42 回愛知県立芸術大学卒業演奏会に出演。ドイツ・オーバースドルフ音楽祭、ドイツカンマーゾリステン等多数マスタークラスを受講。現在は東海地方を中心に後進の指導にあたるほか、各分野で幅広く演奏活動を行っている。2017 年より子供向けの弦楽合奏団を結成し、毎年「アンサンブルコンサート」として公演を行っている。セントラル愛知交響楽団契約団員。

- 2013 年～ 刈谷市立依佐美中学校オーケストラ部ヴァイオリン指導者
- 2017 年～ 椋山女学園大学シンフォニーオーケストラヴァイオリン指導者
- 2017 年～ 弦楽合奏団「アンサンブルコンサート」指導、主宰



©Jurgen Christ



## 春日井久美子 Kumiko Kasugai

ヴァイオリニスト

大阪府立夕陽丘高等学校音楽科入学後、名古屋市立菊里高校音楽科に編入し卒業。東京藝術大学を卒業後、2009年よりスイスのカヤレイ・ヴァイオリン・アカデミーにて研鑽を積み、2013年ディプロマを取得。藝大在学中より、ソリストとしての活動のほか室内楽やオーケストラの客演、また様々なジャンルのレコーディングに参加するなど多彩な活動を展開している。

スイス留学中は、シンフォニエッタ・ドゥ・ローザンヌ、オーケストラ・ドゥ・ランシージュネーブの主要なメンバーとして活躍し、現在は名古屋を拠点に活動。妹の春日井恵と定期的にデュオコンサートを開催し、好評を博している。名古屋フランス音楽研究会会員。名古屋音楽学校講師。

HP|kumikokasugai.com



## アートプログラム

### 碓井ゆい Yui Usui

1980年東京都生まれ、埼玉県在住。

社会で見過ごされてきたできごとや歴史を綿密なリサーチによって掘り下げ、身近な素材や手法を用いて彫刻や絵画、インスタレーション作品を制作。アッセンブリッジ・ナゴヤ2016では、女性の社会的地位や賃金の発生しない労働について、刺繍やオーガンジーによる愛らしい手仕事により言及した作品シリーズ「shadow work」を旧・名古屋税関港寮で発表した。

昨年度よりリサーチ中の「港まちの女性と労働」についてをテーマに、新作を発表予定。

主な展示に「VOCA展2018」（上野の森美術館、東京／2018）（大賞である「VOCA賞」を受賞）、アッセンブリッジ・ナゴヤ2016「パノラマ庭園 一動的生態系にしるすー」旧・名古屋税関港寮、愛知、個展「shadow work」（小山市立車屋美術館、栃木／2016）などがある。また2019年8月に開催される「あいちトリエンナーレ2019」にも参加する。

HP|yuiusui.com



《our crazy red dots》2017  
第一生命保険株式会社蔵  
撮影|富田了平

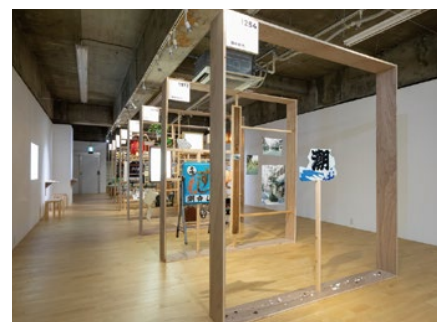
### L PACK. エルパック

小田桐奨と中嶋哲矢のユニット。

「コーヒーのある風景」をテーマにアートやデザイン、建築、民藝など領域を横断し、コミュニケーションの場を創造する。名古屋では、あいちトリエンナーレ2013期間中、「NAKAYOSI」名義で《VISITOR CENTER AND STAND CAFE》を運営。アッセンブリッジ・ナゴヤでは、建築家や「空き家再生スクール」の参加者らとともに約20年間空き家だった旧・寿司店を《UCO》として再生。その機能を受け継ぎながらも人びとが集う「まちの社交場」として、継続的に開いている。2018年末に惜しくも取り壊されることになった《UCO》を新たにさらなる展開を見据えた「社交場」として場所の移行するプロジェクトを進行中。

主な展示に「フェスティバル/トーキョー18|定吉と金兵衛」（東京、2018年）、「新生活のスイッチ」（ATELIER MUJI、東京、2017年）「あいちトリエンナーレ2016」（愛知県美術館ほか、2016年）、などがある。

HP|www.lpack.jp



《UCOのための設計-8枚切りのアーカイブ-》2018  
撮影|富田了平

## 千葉正也 Masaya Chiba

1980年神奈川県生まれ、同地在住。

自身が飼っているカメとその水槽、さらにそれらを取り囲んだ状況を作り込み描く「タートルズ・ライフ」シリーズなど、自作のオブジェや日用品、既存のイメージなどを周到に構成し、それらをモチーフとした絵画やインスタレーションを制作する。この独自の手法によって描かれる絵画やドローイングなどのイメージは、制作者や鑑賞者などさまざまな立ち場を横断しながら、絵画の構造に社会的な事象や日常の中のシステムを組み込み、実在と絵画の境界を絶えず揺るがしている。

今回は、旧・名古屋税関港寮を会場に、周辺の環境を読み取った、滞在型の作品の発表を予定している。

主な展示に「上海ビエンナーレ | Sower Station of Art」(中国、2018年)、「by the mountain path」(White Rainbow Gallery、イギリス、2015年)、「Mono No Aware. Beauty of Things. Japanese Contemporary Art」(エルミタージュ美術館、ロシア、2013年)などがある。



《平和な村》2015

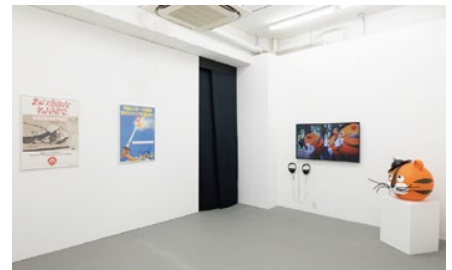
## 山本高之 Takayuki Yamamoto

1974年愛知県生まれ、同地在住。

小学校教諭としての経験から「教育」を制作テーマのひとつとし、子どものワークショップをベースとした映像作品の制作や、普段意識されることのない社会の制度や慣習などの特集性や、個人と社会の関係性を問う作品を制作し、国内外で発表している。また地域コミュニティと協働して実施するプロジェクトにも数多く参加している。新作に向けて、インターネット前夜の80-90年代を「民話」として捉え、知識や知恵を引き継いでいくリサーチワークショップとプロジェクトを展開する。

主な展覧会に Asian Art Award 2017 (寺田倉庫アートスペース、2017年)、「コチ=ムジリス・ビエンナーレ」(インド、2016年)、「ゴー・ビトゥイーンズ展：こどもを通して見る世界」(森美術館、東京ほか、2014-15年)など。近著に『芸術と労働』(共著、白川昌生+杉田淳編、水声社、2018年)。

HP | takayukiyamamoto.com



上より  
アッセンブリッジ・ナゴヤ 2018 展示風景  
《Lie to Me》2017  
撮影 | 富田了平

## サウンドブリッジプログラム

### 山下 残 Zan Yamashita

振付家・演出家

1970年大阪府生まれ。

代表作に、100ページの本を配り観客がページをめくりながら本と舞台を交互に見る『そこに書いてある』、スクリーンに映写される呼吸の記号と俳句のテキストを身体とあわせて見る『せきをしなくてもひとり』、本物の線路の上を歩きながら世界の事象をつぶやく『大行進』。近年は国内外での局地的なリサーチワークも多数手掛け、バリ島に滞在して創作した『悪霊への道』、京都の老舗劇場閉館へのオマージュ『無門館の水は二度流せ 詰まらぬ』、マレーシアの政権交代を、立候補した友人と共にドキュメント&再現した『GE14』などがある。

これまで振付・演出・出演で携わった作品は120作品を超え、特に2005年以降はアジア、ヨーロッパ、北米、中東など、海外公演も多数。昨年アッセンブリッジ・ナゴヤで上演した『大行進』はイタリア(2014年)、シンガポール(2015年)、韓国(2015年)、レバノン(2015年)、アラブ首長国連邦(2017年)でも公演を行ってきた。



《大行進》2018  
撮影 | 青山孝信

※プレスリリースは、公式ウェブサイト内プレスページよりダウンロードいただけます。

<http://assembriidge.nagoya/2018/press.html>

※広報用画像のご希望の際は、お手数をお掛けいたしますが下記までお問合せください。

アssenブリッジ・ナゴヤ (AssembriidgeNAGOYA) 実行委員会事務局

〒455-0037 名古屋市港区名港 1-19-18 3F

TEL/FAX | 052-652-2511 (平日 9:00-17:30)

E-mail | [contact@assembriidge.nagoya](mailto:contact@assembriidge.nagoya) (事務局)

[press@assembriidge.nagoya](mailto:press@assembriidge.nagoya) (広報)

**Website** <http://assembriidge.nagoya/>

**Facebook** <https://www.facebook.com/assembriidge.nagoya/>

**Twitter** <https://twitter.com/assembriidge>

**Instagram** <https://www.instagram.com/assembriidge.nagoya/>

**Youtube** <https://www.youtube.com/channel/UCzgFmhmfr5mR52fWwfgmvTw/featured>

Website



Facebook



Twitter



Instagram



Youtube

